

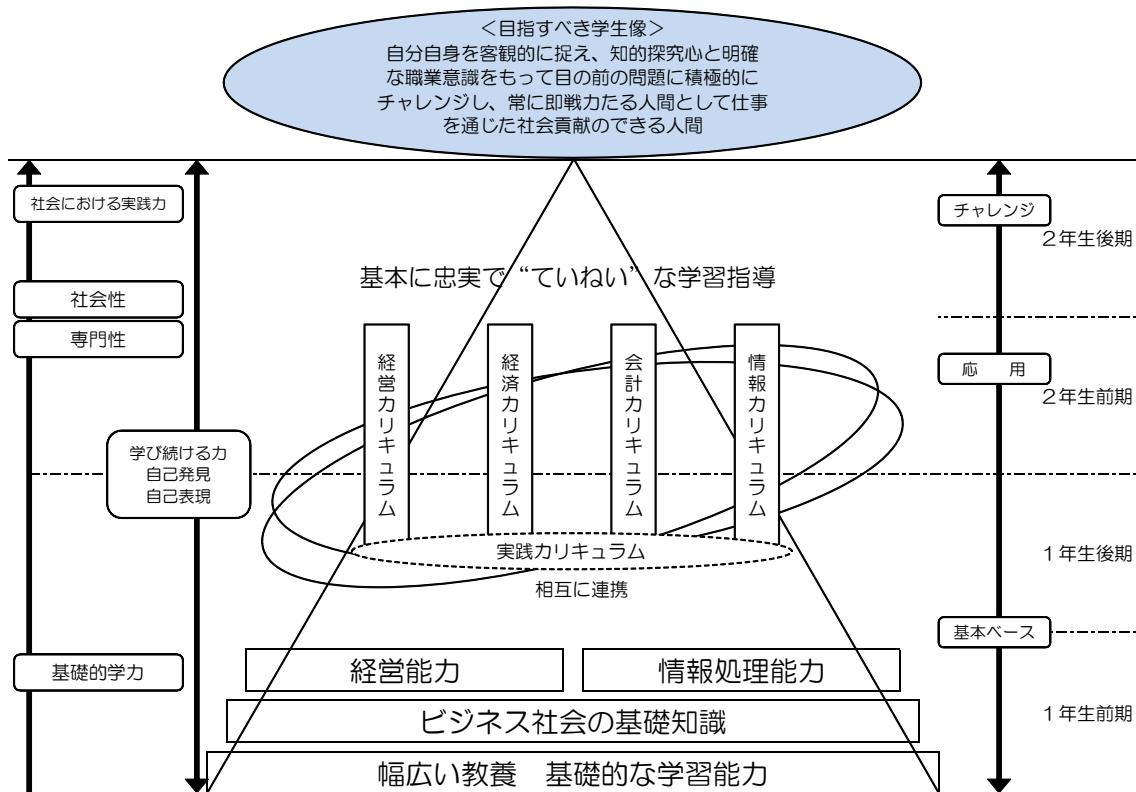
「シラバス」は、講義概要・到達目標・授業内容・テキスト・参考文献・評価方法などについて記した授業計画書のことで、どの科目を履修するかを決める際や受講時の学修確認等に利用する重要な手引きです。Webシラバスとともに熟読のうえ、1年間の履修計画を立ててください。特に、前期・後期の履修時には、モデルコースや卒業要件の確認を併せて行い、履修もれのないようにしてください。

なお、履修に関することは、その都度ガイダンスや掲示によって、詳細な説明や提出書類などを指示しますので、各自で確認してください。

目指すべき学生像とカリキュラムポリシー

本学のカリキュラムは、幅広い教養と基礎的な学習能力、および経営学の基礎知識と情報処理能力の修得を基礎にしつつ、より高度な経営・経済・会計・情報の専門知識を獲得できるように構成されている。このようなカリキュラムは全体として、本学が掲げる「目指すべき学生像」を実現するために体系づけられている。

特に、「目指すべき学生像」の中で謳われている「明確な職業意識」や「社会貢献のできる力」は、通常の講義によって得た知識を現実の場で実践するプロセスの中でこそ身につくものである。本学ではそのような場を経験するものとして「実践カリキュラム」を設定し、通常の講義や演習を通じて得た知識や能力を確実に身につけられるようにしている。「実践を通じて知識や能力を身につける」というプロセスは、まさに現代社会で求められる能力であり、その意味でも本学のカリキュラム体系は「即戦力」となれる人材育成を目指すものとなっている。



科目構成

本学は、経営情報学科だけの単科大学であるが、社会に対する理解と判断力を持ち自立した教養ある社会人の養成を目的としており、専門教育とともに総合科目・語学科目なども配置して、いずれも本学の教育にとって重要なものとして位置づけられている。

1. 「総合科目」

近年、学問の諸分野がますます専門化・細分化して、全体的な見通しが困難となってきた事情を反省し、文理諸科学の成果や研究方法、体育芸術などの人間としての技芸・教養を広く理解し、総合的な展望を持ち得るように配置したものである。そこで本科目は、本学開講科目と他大学等で開講される単位互換科目とで構成している。

また、短期大学の社会的使命の一つである実務能力を涵養するため、様々な資格取得を目的とした科目や、社会に出るための準備を行う就職関係科目も設置している。

2. 「語学科目」

語学関連の諸科目は、大きく英語とそれ以外の外国語との2種類からなっている。これらの外国語科目は、国際社会における必要性、教養としての必要性、経営情報学科の専門科目における必要性などの観点から設置されている。

3. 「基礎教育科目」

経営情報学科で学ぶ上での、基礎的・中心的な科目群である。いずれの系統においても専門教育の入門、および専門共通の基礎科目を配置している。また、社会において産業人として生きるための基礎力を養成する科目も配置している。したがって、学生諸君は、必修と同じ程度に重要な科目と位置づけて履修することが望ましい。

4. 「専門教育科目」

基礎教育科目の上に配置された、さらに専門的・応用的な経営情報学の科目群を配置している。したがって、学生諸君は、ただ単に単位取得の容易さなどで判断するのではなく、自分の卒業後の進路（就職・編入学）を見据えて、ある程度系統的に履修することが望ましい。

※「留学生科目」

本学に在学する留学生のために開講されている科目群である。本学では、アジアを中心とした諸国民との国際交流を深めるために、開学当初から留学生教育を実施している。本科目群は、こうした目的を達成するために、日本語・日本文化を修得する科目群を、総合科目・語学科目内に配置している。

開講時期別科目一覧 (斜体は本学要卒単位に含まない)

	1年生				2年生			
	前期	夏期集中	後期	春期集中	前期	夏期集中	後期	
総合科目	経営情報学科特講							
	スポーツⅠ		スポーツⅡ					
	ヒール・コミュニケーション	日本語コミュニケーション			プレゼンテーション			
	情報倫理		心理学					
	生命と環境		自然科学概論					
	アートとデザイン		日常の法律					
			社会学入門					
			現代社会と宗教					
	基礎数学Ⅰ		基礎数学Ⅱ					
	ビジネス文書表現		秘書学概論					
	ビジネス実務マナー		秘書学実務演習Ⅰ		秘書学実務演習Ⅱ			
	日本語の技法		ビジネス実務概論					
			販売実務					
	就職試験対策 (SPI) A		就職試験対策 (SPI) B					
		宅建士実務演習Ⅰ	宅建士実務演習Ⅱ	宅建士実務演習Ⅲ				
		ホテル・ブライダル実務対策Ⅰ		ホテル・ブライダル実務対策Ⅱ				
		FP実務演習Ⅰ	FP実務演習Ⅱ					
		医療事務技能演習						
		登録販売者実務演習						
		社会活動単位認定制度						
		資格取得単位認定制度						
	学生活動単位認定制度							
	キャリア実践活動単位認定制度							
	日本事情Ⅰ (留)		異文化コミュニケーション					

	1年生				2年生		
	前期	夏期集中	後期	春期集中	前期	夏期集中	後期
語学科目	総合基礎英語		英語フォローアップ				
			英会話の基礎				
	英会話Ⅰ		英会話Ⅱ				
			英会話Ⅰ				
	ビジネス・イングリッシュⅠ		ビジネス・イングリッシュⅠ				
	TOEIC500		TOEIC600		TOEIC800		
			TOEIC500				
基礎中国語Ⅰ		基礎中国語Ⅱ					
		基礎中国語Ⅰ					

	1年生				2年生		
	前期	夏期集中	後期	春期集中	前期	夏期集中	後期
	朝鮮語Ⅰ		朝鮮語Ⅱ				
			朝鮮語Ⅰ				
	ドイツ語		ドイツ語				
	フランス語Ⅰ		フランス語Ⅱ				
	日本語Ⅰ〈留〉		日本語Ⅱ〈留〉		日本語Ⅲ〈留〉		
			日本語N1対策〈留〉				

※ 母国語の履修は不可

基礎教育科目・専門教育科目（下線は基礎教育科目、斜体は本学要卒単位に含まない）

	1年生				2年生		
	前期	夏期集中	後期	春期集中	前期	夏期集中	後期
ゼミ 導入	<u>基礎ゼミナール</u>		<u>ゼミナールⅠ</u>		<u>ゼミナールⅡ</u>		<u>ゼミナールⅢ</u>
	<u>現代社会事情</u>						
経済学	<u>ミクロ経済学</u>	統計学	マクロ経済学		行動経済学		労働経済学
			<u>環境学入門</u>				国際経済学
							環境経済学
							金融論
経営学	<u>経営学総論</u>		企業論		中小企業論		ファイナンス入門
			経営管理論		人的資源管理論		マーケティング論
			マネジメント史		経営組織論		流通論
					経営戦略論		
リ ン ガ ル	地域企業論	ソーシャルビジネス概論	社会政策論				観光概論
			地域創生論				
			地域産業論				
会 計 学	<u>初級簿記（週2回）</u>	<u>簿記特講Ⅰ</u>	<u>簿記特講Ⅰ（前半・週2回）</u>				
			中級簿記Ⅰ（後半・週2回）	中級簿記Ⅱ			
			工業簿記（前半・週2回）				
			原簿計算論（後半・週2回）				
			<u>会計学入門</u>		財務会計論		管理会計論
情 報 講 義	<u>情報処理概論</u>		<u>アルゴリズムとデータ構造</u>		情報ネットワーク		
	<u>システム総合特講Ⅰ</u>		<u>システム総合特講Ⅱ</u>		情報セキュリティ		
			情報デザイン				
情 報 演 習	<u>文書処理技能演習</u>		<u>表計算技能演習</u>				
			<u>プログラミング入門</u>		プログラミング実践		データベース論
			感性心理学				システム設計
そ の 他	<u>キャリアプランニングⅠ</u>		<u>キャリアプランニングⅡ</u>	<u>キャリアプランニング特別講義</u>			
	プロジェクト演習				プロジェクト演習		

	1年生				2年生		
	前期	夏期集中	後期	春期集中	前期	夏期集中	後期
英書講読			経済英書講読Ⅰ		経済英書講読Ⅱ		
			経営英書講読Ⅰ		経営英書講読Ⅱ		
編入学			<i>経済講読Ⅰ</i>		<i>経済講読Ⅱ</i>		
			<i>経営講読Ⅰ</i>		<i>経営講読Ⅱ</i>		
			<i>編入対策特講Ⅰ</i>		<i>編入対策特講Ⅰ(経営)</i>		
					<i>編入対策特講Ⅱ(経済)</i>		

下線は基礎教育科目、斜体は本学要卒単位に含まない

コース制およびユニットとは

【主旨】

本学のカリキュラムにおいては、2017年度より7コース（企業マネジメント、流通ビジネス、ソーシャルビジネス、経済ファイナンス、会計・経理、情報システム、ITマネジメント）と2ユニット（就職・編入）を設置している。個々の科目はコースのモデルカリキュラムに従って、体系的に配置されている。

本学にて開講されている専門ゼミナールは、上記7コースのいずれかに所属しており、専門ゼミナールの選択を行うことは、コースを選択することと同義である。各学生は1年生前期中に専門ゼミナールを選択することでコースを選択することとなり、1年生後期から卒業まで、1年生前期中に選択した専門ゼミナールに所属しなければならない。なお、専門ゼミナール（コース）の選択は、原則として学生が行うが、ゼミナール定員の制約上、必ずしも希望通りに配属されるとは限らない。また1年生後期以降、各学生は原則として所属コースごとに定められているモデルカリキュラムに沿って、さらに専門ゼミナールによっては教員が推薦するカリキュラムに沿って履修しなければならない。これは従来、科目の履修選択を学生自身が自由に行ってきたが、その結果学生が所属する専門ゼミの分野と関係なく履修するなど、学問的に一貫性のない履修状況となっている例が多々見られた。そのため2002年度より、各コースのモデルカリキュラムを示し、それに沿って専門分野の授業を時間割上配置することで、学生諸君が個々人の目標や目的に合わせて体系的な学びを実現できるよう配慮したものである。

ユニットは大きく2つの進路（就職・編入）別に設定されている。さらに各ユニットは細分化されており、それぞれがいくつかの科目によって構成されている。就職ユニットは、公務員ユニットやホテル・ブライダルユニットのように、特定の職業（業界）への就職を目的としたものと、医療事務ユニットや販売士ユニットのように、特定の資格取得を目的としたものに分かれている。大学編入ユニットは、一般受験による編入学を目指すもの（国公立大受験ユニット、難関私大受験ユニット）と、協定校推薦による編入学を目指すもの（協定校推薦ユニット）に分かれている。ユニットを意識して科目を履修することにより、それぞれの進路決定に必要な知識やスキルを体系的に身につけることができる。また、ユニットは少数の科目群によって構成されており、時間割上可能であれば、複数のユニットを履修することが可能となっている。

【意義】

科目構成で述べたように、本学は単科大学ではあるが、学生諸君に提供している授業科目は幅広い分野にわたっている。それだけに、明確な目的意識を持たず安易に履修科目を選択すれば、2年間の学修内容に一貫性を欠き、仮に卒業単位を満たしていても必要な知識・能力を身に付けず卒業する可能性がある。しかし、コースを設けることにより、学生自身が入学後できるだけ早期に専門分野を意識し、大学で学ぶ目的を明確化できるため、安易で無目的な科目履修ではなく、専門分野や目的に応じた必要な科目を履修することができる。その結果、2年間という短い期間で専門的な知識・技能を効率よく効果的に修得できるようになる。さらに、各専門分野に応じて履修科目を絞ることにより、コース外の科目の位置付けも明確になり、各自の観点から余裕や必要に合わせて他科目を選択することができ、一般的、総合的な知識・能力も十分身につけることができる。

また、コースの履修とともにユニット科目を履修することによって、個々の進路決定および卒業後に必要な知識やスキル（資格）を効果的に修得することができる。

【選択時期】

コース選択の時期と方法は、別途ガイダンスを設け説明する。基本的には、1年生前期の6～7月頃である。専門ゼミの選択だけを意識するのではなく、ゼミの選択の前にまずコースを意識し、その上でゼミを選択する。そして、1年生の後期以後の履修科目の選択は、各コースおよび専攻（さらには専門ゼミ）のモデルカリキュラムに沿って行うことになる。

1 年生前期の履修について

先述の通り、本学では1年生前期の6～7月頃に専門ゼミを選択し、1年生の後期以後の履修科目の選択は、各コースおよび専攻（さらには専門ゼミ）のモデルカリキュラムに沿って行う。

1年生前期は所属コースが決まっていないため、共通の履修モデルに従って履修することになる。この時期には1年生後期以降、コース別の専門的な学修の基礎となる科目が多く配置されており、それらの多くは必修科目または選択必修科目となっている。特に必修科目は、今後の学修に必要不可欠なものであり、この時期に単位修得しておく必要がある。また、選択必修科目は、専門的な学修に直結するものが多く、コース（専攻）選択も念頭に入れて履修を進めることが求められる。しかし、視野を広げる観点等から、可能な限り幅広く学修しておくことが望ましい。

< 1 年生前期 履修モデル >

	一般学生	留学生	備 考
必修科目	基礎ゼミナール 経営情報学科特講 経営学総論 総合基礎英語（A） 文書処理技能演習※1	基礎ゼミナール 経営情報学科特講 経営学総論 日本語Ⅰ〈留〉 日本事情Ⅰ〈留〉 文書処理技能演習※1	
選択必修科目	経済学入門 （ミクロ経済学）※2 初級簿記 中級簿記Ⅰ※3 情報処理概論	経済学入門 （ミクロ経済学）※2 初級簿記 中級簿記Ⅰ※3 情報処理概論	左記科目のうち いずれか1科目以上必修

※1 2017年度入学生より必修。ただし、日商PC検定（文書処理）3級以上取得済みの者は、申請により単位認定を行う（履修不要）。
日商PC検定（文書処理）3級以上を取得予定であっても、履修登録時に取得できていなければ、履修が必要。

※2 2019年度以降開講科目（基礎教育科目）のみ対象。

※3 後期開講科目。

系統別科目区分

■企業マネジメントコース

1. コースについて

<学習概要>

「マネジメント」とは、企業の経営、経営管理、そして経営学を総称したものである。企業マネジメントコースでは、企業の経営および管理のしくみを体系的に学ぶ。そのうえで、企業のマネジメントに関する理論を学び、企業経営の全体像を理解する。

<到達目標>

企業の経営および管理のしくみと理論を学ぶことによって、それらを皆さんのキャリア・プランに応用していく。このような取り組みを通じて、企業（就職）や経営系4年制大学（編入学）が求める諸能力を養成する。

2. 科目履修について

企業マネジメントコースの履修モデルは、企業の経営および経営管理を体系的に学ぶことができるものになっている。「必修科目」は、「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」であり、企業のマネジメントを理論と実践の両面から理解する。「必修に準ずる科目」としては、企業マネジメントコースの基幹科目である「経営管理論」をはじめとして、企業マネジメントの全体像を理解することができる科目群になっているため、全科目を履修することが望ましい。「履修が望ましい科目」は、企業マネジメントを多面的に理解するために必要なものであるため、積極的に履修してほしい。このような科目は、皆さんが希望する進路（就職・編入学）を実現するために必要なものであるため、履修と学修を積極的に行ってほしい。

<企業マネジメントコース履修モデル>

	1年生後期	2年生前期	2年生後期
必修科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
必修に準ずる科目	経営管理論 マネジメント史 企業論 会計学入門または会計学	人的資源管理論 経営組織論 中小企業論	マーケティング論 金融論
履修が望ましい科目	経営情報論Ⅰ 日本経済論 地域社会論	プレゼンテーション	流通論

系統別科目区分

■流通ビジネスコース

1. コースについて

<学習概要>

経済活動の基本は言うまでもなく生産にあるが、顧客のニーズに対応した適切なモノづくりを行うためには、生産と連携した流通の仕組みをつくることが大切である。このコースでは、経営学の視点から、こうした企業における流通システム、特に物流に焦点をあてて、その意義、基本的な機能、最近の動き等について勉強する(企業へのヒアリング調査等を含む)。

<到達目標>

企業における生産と販売の基本的な仕組みを理解し、実際の動きに興味を持てるようになること。就職活動において、その志望先、入社先の決め方はいろいろであるが、「じむ、じむ」ではなく、具体的な産業、企業、職種の特徴、社風などがある程度イメージできるようになること。

2. 科目履修について

流通コースはゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ、及びゼミ特別活動(企業へのヒアリング調査、合宿等含む)を中心として展開する。ゼミナールは内容の濃いものとなる。したがって、本コースには科目履修上の大きな条件はないが、以下の点に留意されたい。流通の意義と仕組みを具体的に理解するためには、経済学、経営学、情報学、会計学等の幅広い科目を履修することが望ましい。企業論、中小企業論、経営戦略論、経営英書講読は、ゼミナールにてそれら科目の講義内容を前提として学習を進める場合があるので、必修に準ずる科目の中でも特に履修が望ましい。流通論、マーケティング論も本コースの重要科目である。

<流通ビジネスコース履修モデル>

	1年生後期	2年生前期	2年生後期
必修科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
必修に準ずる科目	企業論 経営管理論 会計学入門または会計学 経営英書講読Ⅰ	中小企業論 経営組織論 人的資源管理論 経営英書講読Ⅱ	マーケティング論 流通論
履修が望ましい科目	マネジメント史 経営情報論Ⅰ ミクロ経済学 日本経済論 中級簿記Ⅰ	財務分析論 プレゼンテーション	(マクロ経済学) 金融論

() は1年生配当科目

系統別科目区分

■ソーシャルビジネスコース

1. コースについて

<学習概要>

私たちが生活している社会には、格差問題や地球環境問題、さらには地方都市の衰退や障害者雇用、ホームレス救済など、多様な社会的課題が存在している。本コースでは、これらの社会的課題を、収益事業（＝ビジネス）を通じて解決する事業体（社会的企業）の経営手法について学んでいく。また、このような事業手法を学ぶことを通じて「仕事を通じた社会貢献とは何か？」について考えていく。

<到達目標>

収益の確保が困難な事業領域で、収益性を確保しつつ継続的に社会に貢献していく事業手法（マーケティング手法や経営戦略、組織管理等）を学ぶことによって、「企業経営の原点」を身につけるとともに、「仕事を通じた社会貢献」ができる人材になること。

2. 科目履修について

本コースでは、現代社会が生み出した多様な社会的課題を、収益事業（＝ビジネス）を通じて解決する方法について学んでいく。そのためには、1年生後期の段階で、現代社会が直面している「具体的な課題」を知ると共に、しっかりと「経営学の基礎知識」を身につけておく必要がある。そのような知識を元に、2回生前期・後期では、「具体的な課題」に合わせて「収益事業（ビジネス）」を展開できる応用力を身につけていくことになる。

下表の「ソーシャルビジネスコース履修モデル」は、以上のような考えに基づいて構成されている。本コースを希望する学生は、下表の履修モデルに沿って履修することが望ましい。

（※現代社会が直面している具体的な課題を知るためには、「社会活動単位認定制度」を活用して、自身の身の回りにあるNPO等でボランティア活動に参加することも効果的である）

<ソーシャルビジネスコース履修モデル>

	1年生後期	2年前期	2年生後期
必修科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
必修に 準ずる科目	経営管理論 企業論 地域社会論 地域創生論 地域産業論	人的資源管理論 中小企業論 経営組織論 (地域企業論)	マーケティング論 流通論 観光概論
履修が 望ましい 科目	マネジメント史 経営情報論Ⅰ 会计学入門または会计学 日本経済論 ミクロ経済学	財務会計論 ソーシャルビジネス概論(※)	(マクロ経済学) 金融論

(※) 1年生時に履修していない場合は履修すること

() は1年生配当科目

系統別科目区分

■経済ファイナンスコース

1. コースについて

<学習概要>

経済の知識やセンスはビジネスの世界では必ず必要となる。経済の国アメリカでは、学校教育で社会科とは別に経済科があるほどである。

特に、経済発展に伴って企業にとっても個人にとっても金融の発展はめざましいものがある。人生の設計を間違いのないものにし、何歩も先を行く上で金融（ファイナンス）の知識を身につけてほしい。

<到達目標>

今日の先進国社会では、政府に依存した経済政策から競争によって企業や個人が成長の意欲を持つ政策へと大きく変化している。経済学もこれら二つの政策を支える学派が経済理論を整えている。

これらの知識は身近な生活でも、合理的なものの考え方、企業と個人をめぐるお金の動き、インフレーションの問題、クレジットをどう見るか等の問題が迫ってきている。これらについての理解と人生の設計ができるように進めていく。

2. 科目履修について

1年生後期の配当科目は「経済ファイナンスコース」を学ぶための大切な基礎の科目である。まずは履修すること。

2年生前期はこのコースの骨格部分で大切である。科目間の関連も考えて（たとえば、同じ用語や重なる内容が各科目でどのように説明されているか等）勉強すること。2年生後期はこれからの生活に役立つ科目である。しっかり学ぶこと。

<経済ファイナンスコース履修モデル>

	1年生後期	2年生前期	2年生後期
必修科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
必修に準ずる科目	ミクロ経済学 日本経済論 経済英書講読Ⅰ		(マクロ経済学) 金融論 国際経済学 環境経済学
履修が望ましい科目	地域社会論 会计学入門または会计学	経済英書講読Ⅱ 現代社会事情(※) 財務会計論 財務分析論	流通論

(※) 1年生時に履修していない場合は履修すること

() は1年生配当科目

系統別科目区分

■会計経理コース

1. コースについて

<学習概要>

企業をはじめ、国や NPO などさまざまな組織の活動においては、多くの場合、お金の動きが伴う。会計は、それらの組織の活動を貨幣額で記録して計算し、その結果を報告するシステムである。会計情報は、重要な経営情報の一つである。このコースでは、会計における記録・計算・報告の方法や会計の意義、会計処理の基礎にある基本的な考え方について学んでいく。

<到達目標>

会計の記録・計算・報告の方法である複式簿記を理解すること。報告書である財務諸表の作成に関するさまざまなルール（会計基準）とその基礎にある考え方を理解し、財務諸表が作成できるようになること。正しい会計情報を作成し報告することの重要性を理解し、健全な会計マインド（会計観）を身につけた人材になること。

2. 科目履修について

会計系科目を学ぶ上でもっとも重要な基礎は、複式簿記である。よって、1年生前期の初級簿記を修得することが大前提である。また、財務分析をするうえでも、その他、さまざまなレポートなどの作成においても Excel の知識は必須なので、表計算技能演習を履修し、Excel を活用できる能力を身につけること。

会計系科目のほとんどは、必修に準ずる科目に属しており、それらの科目を系統的に修得することによって、会計学の基礎を身につけてほしい。会計学を学ぶためには、初級簿記はもちろん、中級簿記の知識も必要である。効率的に学ぶためには、関連科目をきちんと履修し、相互補完的に理解を深めていくことが重要である。簿記会計は、積み重ねの学問であり、基礎からしっかりと知識を積み重ねて能力を伸ばしてほしい。

<会計経理コース履修モデル>

	1年生後期	2年生前期	2年生後期
必修科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
必修に準ずる科目	会計学入門 会計学 簿記特講Ⅱ 中級簿記Ⅰ 中級簿記Ⅱ 原価計算論 経営管理論	財務会計論 財務分析論	
履修が望ましい科目	企業論 マネジメント史 表計算技能演習	中小企業論 情報セキュリティ プレゼンテーション	税務会計論

系統別科目区分

■情報システムコース

1. コースについて

<学習概要>

現代社会では、仕事でも生活でも、コンピュータやネットワークを利用しない場はほとんどない。本コースでは、情報システムを適切に使いこなしてビジネスや業務に生かすために、情報技術の基礎知識と応用方法を学んでいく。さらに、単に与えられたものを使うだけではなく、現状の課題に対して改善・解決の方法を考え、実現する力をつけることを目指す。

<到達目標>

情報システムを理解し、業務やビジネスにおいて的確に活用できること。
経営と情報の両方をきちんと学び、情報技術の活用で業務やビジネスの改善に貢献できる人材になること。

2. 科目履修について

本コースの履修モデルにおける「必修に準ずる科目」は、情報処理技術を学んだと言えるために当然学ぶべき科目群である。また、JAUCB「情報処理士」認定にも必要になる。講義科目では正確な専門知識を、実習科目では自分で問題を解決する力を身につけることが求められる。なお、システム設計の前提にはプログラミングがあるなど、系統的に学ぶことも重要である。履修モデルはそれを考慮して組んであるので、漏らさず順序良く履修することが望ましい。

「履修が望ましい科目」は、実社会で活躍するために学んでおくの良い科目群である。本コースはビジネスや業務の現場で役に立てることを目指すため、会計学のように情報系ではない科目も含んでいる。余裕があればさらに興味に応じて経営系科目を積極的に学ぶと良い。

<情報システムコース履修モデル>

	1年生後期	2年生前期	2年生後期
必修科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
必修に準ずる科目	アルゴリズムとデータ構造 プログラミング入門 経営情報論Ⅰ 情報デザイン論	情報ネットワーク 情報セキュリティ プログラミング実践 情報処理概論(※)	システム設計 データベース論
履修が望ましい科目	表計算技能演習 会計学入門または会計学 マルチメディアⅠ	プレゼンテーション コンピュータミュージック	

(※) 1年生前期に履修していない場合は履修すること

系統別科目区分

■ ITマネジメントコース

1. コースについて

<学習概要>

「経営情報論Ⅰ」で学ぶ、①4分類の経営情報システム、②データ・情報・知識、③情報の相互作用、④組織の受動的・能動的環境適応行動、⑤生存システム、等の概念をベースに、経営情報システムの役割期待について学習していく。また、近年の「ビッグデータ時代」においては、日常生活で活用される消費者向けITが企業経営の現場にも導入・利用されていることを踏まえて、ITの組織的な活用方法・能力についての理解も深めていく。

<到達目標>

IT中心の情報システムによって展開される情報の相互作用と、人間固有の情報処理能力によって展開される情報の相互作用とが、相互補完的に機能して企業活動が展開されることを理解していく。IT活用が所与となっている企業経営において、人的・組織的要因が収益性・生産性向上にとっていかに重要であるかについて理解することを目指す。

2. 科目履修について

IT活用が企業経営に与えるさまざまな影響について多様な観点から分析・検討するので、下記の履修モデルのように、経済学、経営学、情報学、会計学等の幅広い科目を履修することが望ましい。ただし、学生の志望進路（就職か編入学か。編入の場合は、協定推薦か一般受験か併願か、情報系学部・学科を志望しているか否か、国公立含む産近甲龍ランク以上を志望しているか否か等）によって履修モデルが若干異なってくるので、進路に適合的な履修モデルを学生ごとに提示する。

<ITマネジメントコース履修モデル>

	1年生後期	2年生前期	2年生後期
必修科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
必修に準ずる科目	経営情報論Ⅰ 企業論 経営管理論 日本経済論 ミクロ経済学	中小企業論 経営組織論 情報処理概論(※)	マーケティング論 (マクロ経済学)
履修が望ましい科目	会計学入門または会計学 プログラミング入門 アルゴリズムとデータ構造 経営英書講読Ⅰ	情報セキュリティ 情報ネットワーク	環境経済学

(※) 1年生前期に履修していない場合は履修すること

() は1年生配当科目

ユニット別科目区分

■大学編入ユニット

	1年生				2年生		
	前期	夏期集中	後期	春期集中	前期	夏期集中	後期
国公立大受験	経済数学入門	経営経済特別講義Ⅰ	<u>経営講読Ⅰ</u> <u>経済講読Ⅰ</u> 編入対策英語Ⅰ TOEIC500 大学数学入門 編入対策特講Ⅰ(経営) 編入対策特講Ⅰ(経済)	編入対策英文読解 経営経済特別講義Ⅱ	<u>経営講読Ⅱ</u> <u>経済講読Ⅱ</u> TOEIC800 TOEIC500 編入対策特講Ⅱ(経営) 編入対策特講Ⅱ(経済)		TOEIC600
難関私大受験	経済数学入門	経営経済特別講義Ⅰ	<u>経営講読Ⅰ</u> <u>経済講読Ⅰ</u> 編入対策英語Ⅰ TOEIC500 大学数学入門	経営経済特別講義Ⅱ 編入対策英文読解	<u>経営講読Ⅱ</u> <u>経済講読Ⅱ</u> TOEIC800 TOEIC500		TOEIC600
協定校推薦	経済数学入門	経営経済特別講義Ⅰ	<u>経営講読Ⅰ</u> <u>経済講読Ⅰ</u>	経営経済特別講義Ⅱ	<u>経営講読Ⅱ</u> <u>経済講読Ⅱ</u>		

※1 下線は編入学特別科目※2 網掛けは本学要卒単位に含まない

■資格就職ユニット

	1年生				2年生
	前期	夏期集中	後期	春期集中	前期
公務員	公務員試験対策講座				
ホテル・ブライダル		ホテル・ブライダル業務対策Ⅰ		ホテル・ブライダル業務対策Ⅱ	
医療事務		医療事務技能演習 秘書学概論 秘書学実務演習Ⅰ			秘書学実務演習Ⅱ
登録販売者	登録販売者実務演習				
秘書	ビジネス文書表現 ビジネス実務マナー		秘書学概論 秘書学実務演習Ⅰ		プレゼンテーション 秘書学実務演習Ⅱ
販売士	ビジネス実務マナー		販売実務		
ファイナンシャル・プランニング		FP実務演習Ⅰ	FP実務演習Ⅱ		
宅建士		宅建士実務演習Ⅰ	宅建士実務演習Ⅱ	宅建士実務演習Ⅲ	
ITパスポート	情報処理概論 システム総合特講Ⅰ		システム総合特講Ⅱ		情報セキュリティ
基本情報技術者	情報処理概論 システム総合特講Ⅰ		システム総合特講Ⅱ プログラミング入門 アルゴリズムとデータ構造		情報セキュリティ プログラミング実践
情報セキュリティマネジメント	情報処理概論 システム総合特講Ⅰ		システム総合特講Ⅱ		情報セキュリティ
ウェブデザイン技能士	システム総合特講Ⅰ		情報デザイン		情報ネットワーク 情報セキュリティ
TOEIC	TOEIC500		TOEIC600 TOEIC500		TOEIC800
簿記	初級簿記	簿記特講Ⅰ	簿記特講Ⅱ 中級簿記Ⅰ 工業簿記 原価計算論	中級簿記Ⅱ	

※1 上表中の記載は正課科目のみ(正課科目以外に試験対策講座や勉強会を開催予定)
ただし、公務員ユニットは講座のみのため、記載していません。

※2 斜体は本学要卒単位に含まない

諸課程（秘書士[㊦]、ビジネス実務士[㊦]、情報処理士[㊦]）について

【設置の趣旨】

本学では2014年度より、卒業時に申請することが可能な資格として『一般財団法人全国大学実務教育協会（Japan Association of University and College for Business Education、略称「JAUCB」）』が認定する3資格の課程を設置している。

本学は経済・経営・会計・情報という、実社会に則した学びを通して、21世紀の産業人を育成することを建学の精神に謳っており、これらの資格は正にその能力獲得を公的に証明するものである。またこれらの資格は、卒業後社会に出て実務を行うにあたって、一定基準以上の能力を有していることを証明するものであり、就職活動および卒業後に役立つものである。コースの学びに併せて、積極的な取得を目指してほしい。

【概要】

これらの資格課程には、それぞれ①必修科目、②選択必修科目、③必要単位数が定められている。これらの条件を満たすことで、資格申請が可能となる。

これらの資格は、特定のコースやユニットには所属しておらず、定められた条件を満たせば申請可能である。また、これらの資格は複数申請することが可能である。

□本学に設置している資格課程

資格名称
秘書士 [㊦]
ビジネス実務士 [㊦]
情報処理士 [㊦]

【履修・申請の流れ】

これらの資格を申請するためには、取得を目指す資格を登録し、それぞれ定められた科目の単位を修得した上で、JAUCBに手数料を添えて申請する必要がある。

<1年生>

- 4月 取得希望科目を決め、履修登録・履修
- 6月 専門ゼミナール選択、JAUCB 資格取得希望調査
- 9月 履修登録時に副専攻選択、JAUCB 資格取得希望調査

<2年生>

- 4月 JAUCB 資格取得希望調査、履修登録・履修
- 9月 履修登録時に取得する JAUCB 資格を選択（確定）
申請資格について、申請手数料徴収（短大事務局へ納付）
- 3月 卒業式後、認定証授与

【秘書士④】

＜到達目標＞

この資格課程は、職業人として必要とされる基礎的な事務能力を養成するとともに、情報処理能力や対人関係調整能力を身につけることにより、秘書業務を遂行できる能力の修得を目的としている。そのために、秘書に関する基礎知識の修得とともに、情報リテラシーやビジネス接遇、文書作成など、幅広いスキルの修得を目指している。

これらの知識やスキルは、社会において秘書として活躍するために必要なものであるが、単に専門的な知識やスキルのみでは、社会における組織の一員として貢献することは困難である。そのため、基礎的学力や学びの基礎力を身につけるとともに、経済学や経営学といった社会に関する幅広い知識の修得も目指している。

さらに、自身のキャリアを考察してプランニングすることや、地域社会における実践経験を通して、これらの知識やスキルを実際の社会で活用できるようにすることも目標としている。

＜履修要項＞

領域	選択 必修	1年生		2年生		必要単位数	
		前期	後期	前期	後期		
領域 1	必修		秘書学概論 秘書学実務演習Ⅰ	秘書学実務演習Ⅱ		4単位	16 単位 以上
	選択	文書処理技能演習 ビジネス文書表現 ビジネス実務マナー	表計算技能演習	プレゼンテーション			
領域 2	選択	情報倫理 基礎ゼミナール 日本語の技法 ミクロ経済学 キャリアプランニングⅠ 現代社会事情 ヒューマン・コミュニケーション 社会活動単位認定制度	社会政策論 キャリアプランニングⅡ キャリアプランニング特別講義 心理学 社会活動単位認定制度	経営組織論 社会活動単位認定制度	環境経済学 社会活動単位認定制度	12 単位 以上	
領域 3	選択	プロジェクト演習	ゼミナールⅠ プロジェクト演習	ゼミナールⅡ プロジェクト演習	ゼミナールⅢ プロジェクト演習		

領域1：その資格に必要な知識、スキルを含む実務実践力の領域

領域2：その資格に必要なキャリア・教養の知識と社会人基礎力のスキルの領域

領域3：その資格の知識、スキルを活用する総合的な実務実践力と学びの継続力の領域

※ 上表中の名称から変更となっている科目は、変更後の科目を履修すること（旧科目名参照）

【ビジネス実務士®】

＜到達目標＞

本学はその建学の精神において「個性豊かな21世紀の産業人」育成を掲げている。この資格課程は正に、現代社会において産業人として活躍するために必要な能力育成を目標としている。具体的には、ビジネスの現場における基礎的な実務能力を身につけるとともに、本学の専門分野である、経済・経営・会計・情報の知識を、実社会で活かすことを目指している。そのためには、単に知識の修得だけではなく、情報リテラシーや文書作成など、実務スキルの修得も不可欠であり、この資格課程において重要な位置を占めている。また、ビジネスの現場においては、他社との協働が不可欠であり、対人関係調整能力の涵養も、本資格課程において目指すものである。

さらに、自身のキャリアを考察してプランニングすることや、地域社会における実践経験を通して、これらの知識やスキルを実際の社会で活用できるようにすることも目標としている。

＜履修要項＞

領域	選択 必修	1年生		2年生		必要単位数	
		前期	後期	前期	後期		
領域 1	必修	ビジネス文書表現 ビジネス実務マナー	ビジネス実務概論			4単位	16 単位 以上
	選択	文書処理技能演習	販売実務	プレゼンテーション			
領域 2	選択	情報倫理 基礎ゼミナール 日本語の技法 経営学総論 ミクロ経済学 キャリアプランニングI 現代社会事情 ヒューマン・コミュニケーション 社会活動単位認定制度	経営管理論 企業論 社会政策論 キャリアプランニングII キャリアプランニング特別講義 心理学 社会活動単位認定制度	中小企業論 経営組織論 経営戦略論 人的資源管理論 会計学入門 原価計算論 財務会計論 社会活動単位認定制度	マーケティング論 流通論 環境経済学 社会活動単位認定制度	12 単位 以上	
領域 3	選択	プロジェクト演習	ゼミナールI プロジェクト演習	ゼミナールII プロジェクト演習	ゼミナールIII プロジェクト演習		

領域1：その資格に必要な知識、スキルを含む実務実践力の領域

領域2：その資格に必要なキャリア・教養の知識と社会人基礎力のスキルの領域

領域3：その資格の知識、スキルを活用する総合的な実務実践力と学びの継続力の領域

※ 上表中の名称から変更となっている科目は、変更後の科目を履修すること（旧科目名参照）

【情報処理士®】

＜到達目標＞

この資格課程においては、コンピュータやネットワークに関する基礎知識を身につけるとともに、実際に実務において使用するソフトウェアの活用方法や、Webやデータベースの設計・作成スキル、アプリケーションのプログラミング技術など、情報技術に関する幅広いスキルを修得することを目指している。

しかしそれら専門的な知識やスキルのみでは、社会における組織の一員として貢献することは困難である。そのため、基礎的学力や学びの基礎力を身につけるとともに、社会に関する幅広い知識や人間関係調整能力を身につけることも目標としている。

さらに、自身のキャリアを考察してプランニングすることや、地域社会における実践経験を通して、これらの知識やスキルを実際の社会で活用できるようにすることも目標としている。

＜履修要項＞

領域	選択 必修	1年生		2年生		必要単位数	
		前期	後期	前期	後期		
領域 1	必修	情報処理概論 文書処理技能演習	プログラミング入門			4単位	16 単位 以上
	選択	情報倫理	表計算技能演習	情報セキュリティ 情報ネットワーク プログラミング実践 プレゼンテーション	データベース論		
領域 2	選択	基礎ゼミナール 日本語の技法 ミクロ経済学 キャリアプランニングI 現代社会事情 ヒューマン・コミュニケーション 社会活動単位認定制度	社会政策論 キャリアプランニングII キャリアプランニング特別講義 心理学 社会活動単位認定制度	経営組織論 社会活動単位認定制度	環境経済学 社会活動単位認定制度	12 単位 以上	
領域 3	選択	プロジェクト演習	ゼミナールI プロジェクト演習	ゼミナールII プロジェクト演習	ゼミナールIII プロジェクト演習		

領域1：その資格に必要な知識、スキルを含む実務実践力の領域

領域2：その資格に必要なキャリア・教養の知識と社会人基礎力のスキルの領域

領域3：その資格の知識、スキルを活用する総合的な実務実践力と学びの継続力の領域

※ 上表中の名称から変更となっている科目は、変更後の科目を履修すること（旧科目名参照）

進路関係カリキュラム

本学では、自己の進路を考え、その実現を目指すために、様々な科目を開講している。

これらの科目は、1年生後期以降に多く開講されているが、2年間という短期間で進路を決定しなければならない短期大学という特性上、1年前期にもいくつかの科目が開講されている。そのため、早めに進路の目標を決め、履修することが望ましい。

進路関係科目は大きく「就職関係」と「編入学関係」に分かれるが、1年前期には進路全般を考える「キャリアプランニングⅠ」が開講されている。この科目は自分の進路、将来について考える上で重要なカリキュラムであり、就職・編入学・専門学校進学等、希望進路を問わず履修することが望ましい。

【就職関係】

本学では、就職希望者のために以下の科目を開講している。就職希望者はできる限り履修してほしい。また、就職に役立つ資格取得を目的とした科目も多く開講している（23ページ参照）。併せて受講し、資格取得を目指してほしい。

なお、以下の科目は就職希望者以外の学生も履修することが可能である。

		1年前期	1年生後期	2年前期
キャリア基礎		キャリアプランニングⅠ		
キャリア実践	就活総合		キャリアプランニングⅡ キャリアプランニング特別講義 (春期集中)	
	筆記試験対策	就職試験対策 (SPI) A	就職試験対策 (SPI) B	
	語学 (英語)	TOEIC500	TOEIC600 TOEIC500	TOEIC800
	コミュニケーション	ヒューマン・コミュニケーション	日本語コミュニケーション (夏期集中)	
	プレゼンテーション		英語プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション

【編入学関係】

本学では、編入学希望者のための科目として、編入学特別科目および編入学関連科目を開講している。編入学希望者は希望する受験形態別に3つのユニットに分かれ、それぞれ履修することができる編入学関連科目が異なる（15ページ参照）。ただし、編入学試験および編入学後の学修にあたっては、これらの科目を履修するだけでは不十分であり、自身が志望する学部学科に関連する科目も幅広く学んでおく必要がある。

特に協定校推薦を希望する学生は、編入学特別科目の成績評価、修得単位数とともに、全修得科目のGPAがその推薦順位決定に大きく影響する。そのため、より高評価の成績を獲得することが重要である。

なお、これらの科目は、編入学希望者以外の学生も履修することができるが、要卒単位として認定されない科目が含まれているため、注意が必要である（詳細はシラバスを熟読のこと）。

【資格検定対策】

本学では、就職活動や将来を見据え、学生の資格取得を積極的に支援するため、以下の科目を開講している。また2014年度より、指定した科目群の単位を修得することで、卒業時に申請することができる、公的資格課程も設置している。

これらの資格は、就職活動や実際に社会に出た後に役立つものであり、積極的に取得を目指してほしい。特に就職関係科目と併せて履修することが望ましい。

また、編入希望者であっても、編入後は単位修得と就職活動のために余裕が少なく、資格取得のための学習時間が確保できない可能性がある。そのため、編入学希望であっても、積極的な資格取得が望まれる。

＜検定資格対策科目＞

資格	1年生前期	1年生後期	2年生前期	2年生後期
ビジネス文書検定3級	ビジネス文書表現(前半)			
ビジネス実務マナー検定3級	ビジネス実務マナー(後半)			
秘書検定3級		秘書学実務演習Ⅰ		
秘書検定2級			秘書学実務演習Ⅱ	
医科2級医療事務実務能力認定試験 (2級医療秘書実務能力認定試験)		医療事務技能演習(夏期~後期)		
登録販売者	登録販売者実務演習			
日商販売士検定3級		販売実務		
日商簿記検定3級	初級簿記	簿記特講Ⅰ(夏期) 簿記特講Ⅱ(前半)		
日商簿記検定2級		中級簿記Ⅰ(後半)※1 中級簿記Ⅱ(春期)※1 工業簿記(前半)※2 原価計算論(後半)※2		
宅地建物取引士資格試験	宅建士実務演習Ⅰ(夏期)	宅建士実務演習Ⅱ 宅建士実務演習Ⅲ(春期)		
3級ファイナンシャル・プランニング技能検定		FP実務演習Ⅰ(夏期) FP実務演習Ⅱ		
日本語検定	日本語の技法			
TOEIC	TOEIC500	TOEIC600 TOEIC500	TOEIC800	
ITパスポート試験	システム総合特講Ⅰ	システム総合特講Ⅱ		
日商PC検定3級 (文書作成)	文書処理技能演習			
日商PC検定3級 (データ活用)		表計算技能演習		
ウェブデザイン技能士	システム総合特講Ⅰ	情報デザイン		

※1 商業簿記

※2 工業簿記

社会活動単位認定制度・学生活動単位認定制度・資格取得単位認定制度

本学が掲げる「目指すべき学生像」の中にある「即戦力たる人間」の育成には、基礎的な能力養成、社会性の涵養が重要である。これらの科目は、授業に出席し、教員より指示される課題に取り組むだけで単位修得することはできない。自ら課題を見つけ、積極的にチャレンジすることが求められる。

➤ 社会活動単位認定制度

地域でのボランティア活動を通じて多様な価値観の人間と交流することによって、社会性の向上を目指すと同時に、活動を通じて「地域社会の一員として活動することの大切さ」を実践的に学ぶ科目である。単位認定のためには、20時間以上の実践活動を行い、申請を行うこと。

詳細については、シラバスを参照すること。

➤ 学生活動単位認定制度

学内を中心に行われる学生活動（日本語SA、留学生語学講座、オープンキャンパススタッフなど）を通じて、社会性の向上を目指すと同時に、コミュニケーション能力を養う科目である。単位認定のためには、20時間以上の実践活動を行い、以下の通り申請を行うこと。

＜申請方法＞

① 活動を実施

認定対象活動を行い、活動状況を活動記録書に記入し、担当者（教職員）に確認（押印）してもらってください。

② 活動を申請

これまでの活動をレポートにまとめ（活動報告書）、活動記録書とともに各期の締切期日までに提出してください。

➤ 資格取得単位認定制度

検定資格を取得したことをもって、本学の単位を修得したと認定する科目である。単位認定のためには、資格を取得し、必要な申請手続きを行う必要がある。入学前に対象となる資格を取得している場合は、届出手続きのみで単位認定が行われる。

認定される資格は別表の通りであるが、掲載されていない資格を取得し、単位認定を希望する場合は、学生支援課にて確認しておく必要がある。ただし、本科目は本学の卒業単位であるため、認定される資格は本学設置学科との関連性が必要である。また、全国商業高等学校協会（全商）資格等、高校レベルの資格については認定されない。

なお認定可能な資格には、合格に必要な学修時間や合格難易度等を踏まえて、3つの基準が設定されている。また単位認定は、それぞれの基準において、卒業までに1資格のみ可能となっている。

また本制度とは別に、特定の資格を取得し、申請することで、奨学金が支給される制度（京都経済短期大学教育後援会 資格取得等支援奨学金）もある。

＜申請方法＞

①検定の合格

申請対象検定の合格証等をコピーしてください。（本学入学前に合格したものでも申請可能です）

②申請書類の提出

申請書類に必要事項を記入した上、合格証等のコピーを添えて各期の締切期日までに提出してください。

＜認定資格一覧＞

資格名称	A基準	B基準	C基準
日商簿記検定	3級	2級	1級
日商PC検定（文書作成）	3級以上	1級	
日商PC検定（データ活用）	3級以上	1級	
秘書検定	3級	2級以上	
TOEIC	400以上	630以上	800以上
Microsoft Office Specialist Word	取得		
Microsoft Office Specialist Excel	取得		
ビジネス文書検定	3級		
ビジネス実務マナー検定	両方取得		
ビジネス文書検定	2級	1級	
ビジネス実務マナー検定	2級	1級	
サービス接遇検定	2級	1級	
ファイナンシャル・プランニング技能検定	3級	2級	1級
ITパスポート試験	取得		
基本情報技術者試験		取得	
情報セキュリティマネジメント試験		取得	
ウェブデザイン技能検定	3級	2級	1級
日商リテールマーケティング（販売士）検定	3級	2級	1級
日本語検定	準2級以上	準1級以上	
日本語能力試験（留学生）		N1取得	
Jテスト（留学生）	800以上	900以上	930以上
宅地建物取引士			取得
2級医療秘書実務能力認定試験	取得		
医科2級医療事務実務能力認定試験		取得	

※ 単位修得はより上位のものを優先とし、1回のみとなります（最大3単位まで）

例1) A基準資格を取得して申請した後、B基準資格を取得して申請した場合

A基準認定：1単位 B基準認定：1単位 ⇒ 合計2単位

例2) A基準資格を取得（申請）せず、B基準資格を取得して申請した場合

B基準認定：2単位 ⇒ 合計2単位

例3) A基準資格を取得して申請した後、C基準資格を取得して申請した場合

A基準認定：1単位 C基準認定：2単位 ⇒ 合計3単位

例4) B基準資格を取得して申請した後、C基準資格を取得して申請した場合

B基準認定：2単位 C基準認定：1単位 ⇒ 合計3単位

実践カリキュラム

【プロジェクト演習】

プロジェクト演習とは、学生が自発的・自主的に組織、企画し、自らの計画と方向によって運営し、本学の核となる授業を実践に活かしながら、自ら学び続ける力をつける学習活動である。またその経過と成果を公表することによって本学の独自性を明らかにし、学生の実務能力を伸張することを目的としている。

プロジェクト演習は通年（1年間）科目であり、1年次（後期より）または2年次、いずれかで履修することが可能となっている（単位修得は1回のみ）。

履修登録方法等は次の通りである。

□ 履修登録方法

1) 担当教員との面談を行う

面談日時：前々期オリエンテーションにて連絡

面談場所：教員の研究室

2) 面談にて登録が認められた場合は、追加・訂正期間に「履修登録確認票」に追加記入をして、学生支援課に提出する。

※1 参加者多数の場合は、選考を行う場合がある。

※2 プロジェクト演習として修得できる単位の上限は8単位とする。

（それ以上修得した場合は、要卒単位には含まないが単位認定は行うものとする。）

※3 1回生から履修可能だが、単位修得は1回のみ。

（1回生で単位修得者が2回生で履修する場合は聴講扱いとなる。）

□ 2019年度開講プロジェクト

西京・洛西地域連携プロジェクト（担当：加藤 悟先生）			
概 要	<p>本プロジェクトの主目的は、昨年度の「西京区・洛西連携プロジェクト」の成果を引き継ぎ、本学の立地する京都市西京区・洛西地域における連携事業に取り組むことで、参加学生が実践的にかつ主体的に学ぶ場を提供することである。それゆえ、多種多様な連携活動の提案・運営・補助に関与することが、具体的な到達目標として挙げられる。</p> <p>西京区役所との連携を基礎に、昨年度行ってきた西京区・洛西地域における地域活性に関する諸活動に参加することがプロジェクトの内容の中心となる。</p> <p>また、学生がこの地域で主体的に新たな連携事業を立ち上げることが新規の内容として可能性がある。</p>		
単 位	4単位	期 間	通 年
募集条件	特に無し		
募集要件	特に無し		

ごみを減らす実践的演習（担当：小島 理沙先生）			
概 要	<p>実際の社会の現場において、PDCA サイクルは実務的にも大変重要である。そういったプロセスを学生の間で経験しておくことで、社会人となったとき即戦力として活躍することが期待できる。</p> <p>本プロジェクトの目的は、学生の間で実際のPDCA サイクルを自ら運営、経験することで、社会人として活躍できる人材基礎をつくることである。到達目標は、プロジェクトを運営し、実施し、報告をとりまとめることができるようになることとする。そのために、学内以外の社会人の方々と一緒にプロジェクトを実施していく経験もつむ。</p> <p>また、廃棄物の発生抑制を実践的に取り組むことで、社会課題に対する具体的な取り組みを実感してもらおう。</p> <p>NPO ごみじゃぱん、洛西エコまちステーションさん、地域環境デザイン研究所 ecotone さん等に協力していただきながら、イベントや店舗においてできる容器包装等廃棄物の発生抑制活動に取り組む。例えば、昨年実績のある Reuse 食器の活用を地域の夏祭りに導入をすすめたり、小売店でのプロモーション活動、推奨できる商品の選定や開発を行う。</p>		
単 位	4単位	期 間	通 年
募集条件			
募集要件			

GPAについて

GPA (Grade Point Average) とは、成績評価を以下の計算式でスコア化した、成績評価の平均値です。この数値が一定基準に満たない場合は、進級ができなかったり、奨学金等の受給に影響があったりする場合があります。

$$\frac{(S \text{ 評価単位数} \times 4) + (A \text{ 評価単位数} \times 3) + (B \text{ 評価単位数} \times 2) + (C \text{ 評価単位数} \times 1)}{\text{総修得単位数}}$$

登録単位数の制限

キャンパスガイドでも説明している通り、大学の学修は授業と自習の両方を行うことで理解できる、高度な内容である。そのため、むやみに多くの科目を履修しても十分な学習時間が取れず、修得すべき内容を理解することが困難である。そこで次の表のように、各期に登録できる単位数に制限を設ける。

なお、2年生後期は、既に卒業に必要な単位数を修得し、必修科目以外の履修をしない学生がいるが、2年間の学修の完結となる科目を配置している時期であり、一定の学修をすることが求められる。

<登録単位数の制限一覧表>

時 期	1 年生前期	1 年生後期	2 年生前期	2 年生後期
制 限 単 位 数	30単位	25単位	25単位	
累積制限単位数※		46単位	60単位	

※ 累積制限単位数が設定されている期において、「修得単位数+制限単位数」が累積制限単位数に満たない場合は、累積制限単位数まで登録が可能である。

※ 詳細は以下の表を参照。

<修得単位数と登録可能単位数一覧>

時 期	修得単位数	登録可能単位数	最大修得可能単位数
1 年 生 後 期 履 修 登 録 時	21単位以上	25単位まで	55単位 (1年生前期に30単位修得時)
	20単位以下	(46-修得単位数)まで	46単位
2 年 生 前 期 履 修 登 録 時	35単位以上	25単位まで	80単位 (1年生後期までに55単位修得時)
	34単位以下	(60-修得単位数)まで	60単位

卒業に必要な単位

【2018年度入学生】

◆一般学生

	総合科目	語学科目	基礎教育科目	専門教育科目
必修科目	経営情報学科特講	総合基礎英語A	経営学総論 基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ 文書処理技能演習★	
選択必修科目			初級簿記 情報処理概論 経済学入門	中級簿記Ⅰ
卒業に 必要な単位	6単位以上	4単位以上	20単位以上	16単位以上
	2分野合計12単位以上		2分野合計46単位以上	
合計64単位以上				

◆留学生

	総合科目	語学科目	基礎教育科目	専門教育科目
必修科目	経営情報学科特講 日本事情Ⅰ〈留〉	日本語Ⅰ〈留〉 日本語Ⅱ〈留〉 日本語Ⅲ〈留〉	経営学総論 基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ 文書処理技能演習★	
選択必修科目			初級簿記 情報処理概論 経済学入門	中級簿記Ⅰ
卒業に 必要な単位	6単位以上	4単位以上	20単位以上	16単位以上
	2分野合計12単位以上		2分野合計46単位以上	
合計64単位以上				

※ 卒業見込証明書は、原則として2年生の4月から発行する。なお、その時点で修得単位数が20単位未満の場合は発行しない。また、2年生後期履修登録時点で卒業の見込みが立たない場合も発行しない。

★ 日商PC検定（文書作成）3級以上を取得した者については、所定の申請を行うことで履修を免除し、単位認定を行う（資格取得単位認定制度への同時申請は不可）。

卒業に必要な単位

【2017年度入学生】

◆一般学生

	総合科目	語学科目	基礎教育科目	専門教育科目
必修科目	経営情報学科特講	総合基礎英語A	経営学総論 基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ 文書処理技能演習★	
選択必修科目			初級簿記〔Ⅰ〕 経営情報論Ⅰ 情報処理概論〔Ⅰ〕	中級簿記Ⅰ
卒業に必要な単位	6単位以上	4単位以上	20単位以上	16単位以上
	2分野合計12単位以上		2分野合計46単位以上	
合計64単位以上				

◆留学生

	総合科目	語学科目	基礎教育科目	専門教育科目
必修科目	経営情報学科特講 日本事情Ⅰ〈留〉	日本語Ⅰ〈留〉 日本語Ⅱ〈留〉 日本語Ⅲ〈留〉	経営学総論 基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ 文書処理技能演習★	
選択必修科目			初級簿記〔Ⅰ〕 経営情報論Ⅰ 情報処理概論〔Ⅰ〕	中級簿記Ⅰ
卒業に必要な単位	6単位以上	4単位以上	20単位以上	16単位以上
	2分野合計12単位以上		2分野合計46単位以上	
合計64単位以上				

※ 卒業見込証明書は、原則として2年生の4月から発行する。なお、その時点で修得単位数が20単位未満の場合は発行しない。また、2年生後期履修登録時点で卒業の見込みが立たない場合も発行しない。

★ 日商PC検定（文書作成）3級以上を取得した者については、所定の申請を行うことで履修を免除し、単位認定を行う（資格取得単位認定制度への同時申請は不可）。

卒業に必要な単位

【2016年度以前入学生】

◆一般学生

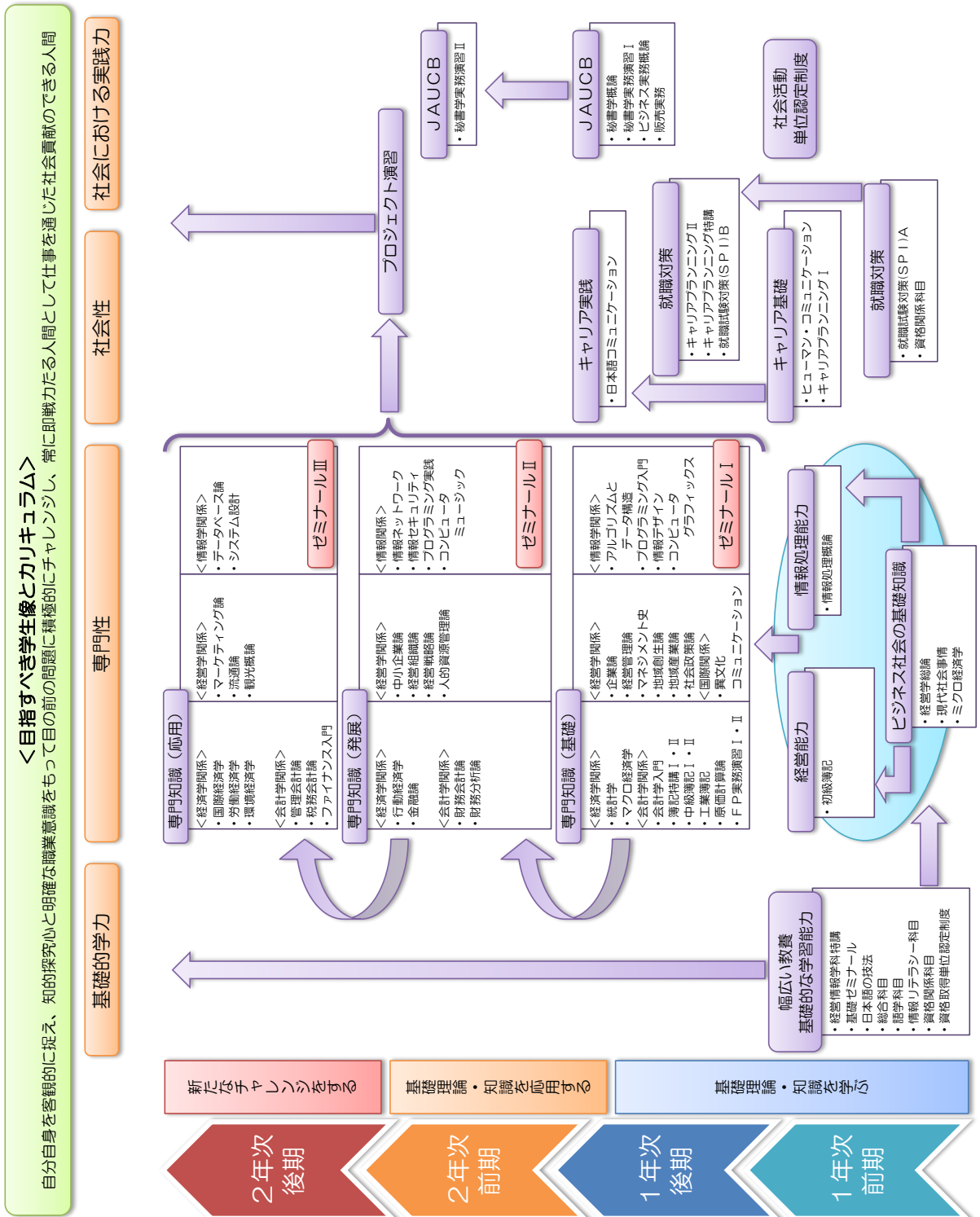
	総合科目	語学科目	基礎教育科目	専門教育科目
必修科目	経営情報学科特講	総合基礎英語A	経営学総論 基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ	
選択必修科目	社会活動単位認定制度 資格取得単位認定制度 上記2科目のうち 1科目以上修得		初級簿記A・B 中級簿記Ⅰ (初級簿記Ⅰ) 経営情報論Ⅰ 情報処理概論Ⅰ 上記4科目のうち1科目以上修得	
卒業に 必要な単位	6単位以上	4単位以上	20単位以上	16単位以上
	2分野合計12単位以上		2分野合計46単位以上	
合計64単位以上				

◆留学生

	総合科目	語学科目	基礎教育科目	専門教育科目
必修科目	経営情報学科特講 日本事情Ⅰ〈留〉	日本語Ⅰ〈留〉 日本語Ⅱ〈留〉 日本語Ⅲ〈留〉	経営学総論 基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ	
選択必修科目	社会活動単位認定制度 資格取得単位認定制度 上記2科目のうち 1科目以上修得		初級簿記A・B 中級簿記Ⅰ (初級簿記Ⅰ) 経営情報論Ⅰ 情報処理概論Ⅰ 上記4科目のうち1科目以上修得	
卒業に 必要な単位	6単位以上	4単位以上	20単位以上	16単位以上
	2分野合計12単位以上		2分野合計46単位以上	
合計64単位以上				

※ 卒業見込証明書は、原則として2年生の4月から発行する。なお、その時点で修得単位数が20単位未満の場合は発行しない。また、2年生後期履修登録時点で卒業の見込みが立たない場合も発行しない。

目指すべき学生像とカリキュラム（科目系統図）



<凡 例（必修・選択必修）>
 ◎：全員必修 ○：一般学生必修 ●：留学生必修

分野	科目名	必修	選択必修	選択	進路	要卒	配当学年	開講時期	単位	制限人数	担当者	備考
総合科目	経営情報学科特講（オムニバス講義）	◎				○	1	前期	2		加藤 悟	
	スポーツⅠ			○		○	全	前期	1		岩倉 真紀子	
	スポーツⅡ			○		○	全	後期	1		岩倉 真紀子	
	ヒューマン・コミュニケーション			○		○	全	前期	2		佐藤 泰子	
	日本語コミュニケーション			○		○	全	夏期集中	2		高田 誠	・全て出席すること
	情報倫理			○		○	全	前期	2		辛 在卿	
	生命と環境			○		○	全	前期	2		西川 完途	・高校程度の基本的な生物学の知識があると望ましい。
	アートとデザイン			○		○	全	後期	2		森崎 巧一	
	心理学			○		○	全	後期	2		安藤 麻紀	
	日常の法律			○		○	全	後期	2		北野 隆志	
	自然科学概論			○		○	全	後期	2		小路 真木子	
	社会学入門			○		○	全	後期	2		藤田 博文	
	現代社会と宗教			○		○	全	後期	2		江 優子	
	基礎数学Ⅰ			○		○	全	前期	2		鱒部 拓郎	・旧科目名「経済数学入門」
	基礎数学Ⅱ			○		○	全	後期	2		鱒部 拓郎	・旧科目名「大学数学入門」
	ビジネス文書表現			○		○	全	前期	1		池川 弘美 奥田 和子 西川 慶子 福地 朋子	・前期（前半） ・週2回の授業を履修すること ・指定されたクラスにて履修すること
	ビジネス実務マナー			○		○	全	前期	1		池川 弘美 奥田 和子 西川 慶子 福地 朋子	・前期（後半） ・週2回の授業を履修すること ・指定されたクラスにて履修すること
	秘書学概論			○			全	後期	2		野山 知子	・2018年度以前単位修得者は本学要卒単位に含む
	秘書学実務演習Ⅰ			○			全	後期	1		野山 知子	・2018年度以前単位修得者は本学要卒単位に含む
	秘書学実務演習Ⅱ			○			2	前期	1		野山 知子	・2018年度以前単位修得者は本学要卒単位に含む
	ビジネス実務概論			○			全	後期	2		野山 知子	
	販売実務			○			全	後期	1		久保 少折	・2018年度以前単位修得者は本学要卒単位に含む
日本語の技法			○		○	全	前期	1	40~48	亀井 久美子	・旧科目名「メディア実践表現」 ・人数超過の場合は抽選を行う	
医療事務技能演習			○		○	全	後期	2	45	中川 直子	・夏期集中期間より開始 ・人数超過の場合は抽選を行う	
登録販売者実務演習			○			全	前期	1		西岡 優子		
F P実務演習Ⅰ			○			全	夏期集中	1		山川 義裕		
F P実務演習Ⅱ			○			全/2	後期/前期	1		山川 義裕		

分野	科目名	必修	選択必修	選択	進路	要卒	配当学年	開講時期	単位	制限人数	担当者	備考
総合科目	宅建士実務演習Ⅰ			○			全	夏期集中	1		末廣 昭	
	宅建士実務演習Ⅱ			○			全	後期	1		末廣 昭	
	宅建士実務演習Ⅲ			○			全	春期集中	1		末廣 昭	
	就職試験対策（SPI）A			○	就職		全	前期	1		三浦 隆平	
	就職試験対策（SPI）B			○	就職		全	後期	1			2019年度不開講
	ホテル・ブライダル業界対策Ⅰ			○	就職		全	夏期集中	1		藤島 久美子 森本 由起子	・旧科目名「ホスピタリティ業界対策Ⅰ」
	ホテル・ブライダル業界対策Ⅱ			○	就職		全	春期集中	1		吉田 美樹 中 可子	・旧科目名「ホスピタリティ業界対策Ⅱ」
	プレゼンテーション			○		○	2	前期	2	30	黒川 マキ	・人数超過の場合は抽選を行う
	日本事情Ⅰ〈留〉	●				○	全	前期	1		王 培英	・留学生科目 ・2018年度以前単位修得者は2単位
	異文化コミュニケーション	●				○	全	後期	1	30	荻原 廣	・一般学生は履修登録時にミーティングを行う
	社会活動単位認定制度			○		○	全	前後期	1		小路 真木子	
	学生活動単位認定制度			○		○	全	前後期	1		小路 真木子	
	資格取得単位認定制度			○		○	全	前後期	1~3		小路 真木子	
	キャリア実践活動単位認定制度			○		○	全	前後期	1		小島 理沙	
	単位互換			○		○						
不開講	国際文化交流史			○		○			2			2019年度不開講
	公務員試験対策A			○	就職				1			2019年度不開講
	公務員試験対策B			○	就職				1			2019年度不開講
	公務員試験対策C			○	就職				1			2019年度不開講
	公務員試験対策D			○	就職				1			2019年度不開講
	公務員試験対策E			○	就職				1			2019年度不開講
	大学総合学習Ⅰ			○		○			2			2019年度不開講
大学総合学習Ⅱ			○		○			2			2019年度不開講	

分野	科目名	必修	選択 必修	選択	進路	要卒	配当 学年	開講 時期	単位	制限 人数	担当者	備考
語 学 科 目	一般語学科目											
	総合基礎英語	○				○	1	前期	1		高橋 弘 近藤 嘉宏 松田 美樹 加納 築 平井 清司	・旧科目名「総合基礎英語A」 ・一般学生は必修 ・英語学力試験（CASEC）結果にてクラス分けを行う ・指定クラスで履修すること ・2018年度以前単位修得者は2単位（「総合基礎英語A」）
	英語フォローアップ			○		○	全	後期	1	30	高橋 弘 松田 美樹 平井 清司	・前期「総合基礎英語」の成績等によりクラス分けを行う ・人数超過の場合は「総合基礎英語」単位未修得者を優先して抽選を行う
	英語プレゼンテーションの基礎			○		○	全	後期	1	20	高橋 弘	
	英会話Ⅰ			○		○	全	前期	1	30	高橋 弘 近藤 嘉宏	・英語学力試験（CASEC）結果にてクラス分けを行う
	英会話Ⅱ			○		○	全	後期	1	20	高橋 弘	・「英会話Ⅰ」を履修していること（履修していない場合は、英語の基礎力があること）
	ビジネス・イングリッシュⅠ			○		○	全	前期	1	44	ジミー コリンズ	・旧科目名「ビジネス・イングリッシュA」 ・人数超過の場合は抽選を行う
	ビジネス・イングリッシュⅡ			○		○	全	後期	1	44	ジミー コリンズ	・旧科目名「ビジネス・イングリッシュB」 ・人数超過の場合は抽選を行う
	TOEIC500			○		○	全	前期 後期	1	30	高橋 弘 近藤 嘉宏	
	TOEIC600			○		○	全	後期	1	30	高橋 弘	
	TOEIC800			○		○	2	前期	1	20	高橋 弘	
	基礎中国語Ⅰ			○		○	全	前期・後期	1	45	浦部 依子	・人数超過の場合は抽選を行う
	基礎中国語Ⅱ			○		○	全	後期	1	45	浦部 依子	・人数超過の場合は抽選を行う ・「基礎中国語Ⅰ」を履修していることが望ましい
	朝鮮語Ⅰ			○		○	全	前期・後期	1	45	藤戸 聡	・旧科目名「コリア語Ⅰ」 ・人数超過の場合は抽選を行う
	朝鮮語Ⅱ			○		○	全	後期	1	45	藤戸 聡	・旧科目名「コリア語Ⅱ」 ・「朝鮮語Ⅰ」の単位を修得していること ・人数超過の場合は抽選を行う
	ドイツ語			○		○	全	前期・後期	1	45	加納 築	・人数超過の場合は抽選を行う
	フランス語Ⅰ			○		○	全	前期	1	45	粟野 広雅	・人数超過の場合は抽選を行う
	フランス語Ⅱ			○		○	全	後期	1	45	粟野 広雅	・人数超過の場合は抽選を行う
日本語関連科目	日本語Ⅰ〈留〉	●				○	1	前期	1		荻原 廣	・留学生科目（Ⅰ～Ⅲすべて必修）
日本語Ⅱ〈留〉	●				○	1	後期	1		荻原 廣		
日本語Ⅲ〈留〉	●					○	2	前期	1		荻原 廣	
日本語N1対策〈留〉			○			○	全	後期	1		荻原 廣	
不 開 講	編入対策英語Ⅰ			○	編入	○			1			2019年度不開講
	編入対策英語Ⅱ			○	編入	○			1			2019年度不開講
	中国語会話Ⅰ			○		○			1			2019年度不開講
	中国語会話Ⅱ			○		○			1			2019年度不開講
	ロシア語			○		○			1			2019年度不開講

分野	科目名	必修	選択 必修	選択	進路	要卒	配当 学年	開講 時期	単位	制限 人数	担当者	備考
基礎 教育科目	情報系科目 文書処理技能演習	◎				○	全	前期	1	42	内田 由美 岡本 有加	・2016年度以前入学生は選択科目 ・人数超過の場合は1年生を優先とした上で抽選を行う
	表計算技能演習			○		○	全	後期	1	42	内田 由美	・人数超過の場合は1年生を優先とした上で抽選を行う
	情報処理概論		◎			○	1	前期	2		小路 真木子 森崎 巧一	・1年生は指定クラスにて受講すること
	アルゴリズムとデータ構造			○		○	全	後期	2		小路 真木子	・「プログラミング入門」とセットで履修することが望ましい
	プログラミング入門			○		○	全	後期	1	40	小路 真木子	・人数超過の場合は情報コースの学生を優先した上で抽選を行う ・原則として「アルゴリズムとデータ構造」を同時履修すること
	経営経済会計系科目 経営学総論		◎			○	1	前期	2		加藤 康 佐藤 健司	・2018年度以前入学生は必修 ・1年生は指定クラスにて受講すること
	現代社会事情			○		○	全	前期	2		吉村 恵	
	初級簿記		◎			○	1	前期	3	60	近藤 汐美 伏見 康子 埴岡 忠清 久保田 真行 大沢 良二	・旧科目名「初級簿記Ⅰ」 ・2018年度以前単位修得者は4単位 ・週2回の授業を履修すること ・指定されたクラスにて履修すること
	簿記特講Ⅰ			○		○	1	夏期集中	1		近藤 汐美 伏見 康子 埴岡 忠清	・旧科目名「初級簿記Ⅱ」 ・「初級簿記」の単位を修得していること ・指定されたクラスにて履修すること
	簿記特講Ⅱ			○		○	1	後期	1		近藤 汐美 伏見 康子	・旧科目名「初級簿記Ⅲ」 ・後期（前半） ・原則として「簿記特講Ⅰ」の単位を修得していること ・週2回の授業を履修すること
	会計学入門			○		○	1	後期	2		近藤 汐美	・1年次前期「初級簿記」を履修済みであることが望ましい
	ミクロ経済学		◎			○	全	前期	2		小島 理沙 田村 輝之	・2017年度以前入学生は選択科目 ・旧科目名「経済学入門」 ・2018年度以前「ミクロ経済学」（専門教育科目）とは別科目
	環境学入門			○		○	全	後期	2		加藤 悟	
	実践科目 キャリアプランニングⅠ			○	○	○	1	前期	2		小島 理沙	
	キャリアプランニングⅡ			○	就職	○	1	後期	2		池田 潔	
	キャリアプランニング特別講義			○	就職	○	1	春期集中	2		藤島 久美子	
	ゼミナール 基礎ゼミナール	◎				○	1	前期	2		※1	・指定されたゼミにて受講すること
	ゼミナールⅠ	◎				○	1	後期	2		※2	
	ゼミナールⅡ	◎				○	2	前期	2		※3	・登録したゼミにて受講すること
	ゼミナールⅢ	◎				○	2	後期	2		※3	
不開講 商学			○		○				2			2019年度不開講
情報の経済学			○		○				2			2019年度不開講

※1 井口 衡、石村雄一、加藤悟、加藤康、小島理沙、近藤汐美、佐藤健司、小路真木子、高橋和志、田村輝之、伏見康子、森崎巧一、高橋弘

※2 井口 衡、石村雄一、加藤悟、加藤康、小島理沙、近藤汐美、佐藤健司、小路真木子、菅野 拓、高橋和志、田村輝之、伏見康子、森崎巧一

※2 井口 衡（旧安木ゼミ）、石村雄一、加藤悟、加藤康、小島理沙、近藤汐美、佐藤健司、小路真木子、高橋和志、田村輝之、伏見康子、森崎巧一

分野	科目名	必修	選択必修	選択	進路	要卒	配当学年	開講時期	単位	制限人数	担当者	備考	
専門教育科目	情報系科目	システム総合特講Ⅰ			○		全	前期	2		辛 在卿	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度以前単位修得者は本学要卒単位に含む ・他の関連科目をきちんと学ぶことが必要 	
		システム総合特講Ⅱ			○		全	後期	2		辛 在卿	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度以前単位修得者は本学要卒単位に含む ・他の関連科目をきちんと学ぶことが必要 ・「システム総合特講Ⅰ」を受講していることが望ましい 	
		情報ネットワーク			○		○	2	前期	2		小路 真木子	・旧科目名「インターネットの基本」
		情報セキュリティ			○		○	2	前期	2		小路 真木子	・経営系の学生にも推奨
		プログラミング実践			○		○	2	前期	2	48	大山口 雅	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング系、ならびにアルゴリズム系の授業を履修しているのが望ましいが必須ではない ・人数超過の場合はシラバスに記載した条件にて人数調整を行う
		データベース論			○		○	2	後期	2	48	大山口 雅	・人数超過の場合はシラバスに記載した条件にて人数調整を行う
		システム設計			○		○	2	後期	2	48	大山口 雅	・人数超過の場合はシラバスに記載した条件にて人数調整を行う
		情報デザイン			○		○	1	後期	2	30	森崎 巧一	<ul style="list-style-type: none"> ・旧科目名「情報デザイン論」 ・人数超過の場合はシラバスに記載した条件にて人数調整を行う ・「情報処理概論」の単位を修得していることが望ましい
		感性心理学			○		○	1	後期	2	30	森崎 巧一	・人数超過の場合はシラバスに記載した条件にて人数調整を行う
		コンピュータグラフィックス			○		○	1	後期	2	30	森崎 巧一	<ul style="list-style-type: none"> ・旧科目名「マルチメディアⅠ」 ・人数超過の場合はシラバスに記載した条件にて人数調整を行う ・「情報処理概論」の単位を修得していることが望ましい
	コンピュータミュージック			○		○	2	前期	2	30	森崎 巧一	<ul style="list-style-type: none"> ・旧科目名「マルチメディアⅡ」 ・人数超過の場合はシラバスに記載した条件にて人数調整を行う ・「情報処理概論」および「マルチメディアⅠ」の単位を修得していることが望ましい 	
	経営系科目	企業論			○		○	全	後期	2		加藤 康	
		経営管理論			○		○	全	後期	2		佐藤 健司	
		マネジメント史			○		○	全	後期	2		佐藤 健司	
		中小企業論			○		○	2	前期	2		加藤 康	
		人的資源管理論			○		○	2	前期	2		佐藤 健司	
		経営組織論			○		○	2	前期	2		高橋 和志	
		経営戦略論			○		○	1	前期	2		高橋 和志	
		マーケティング論			○		○	2	後期	2		東 正志	
		流通論			○		○	2	後期	2		東 正志	
地域企業論				○		○	全	前期	2		高橋 和志	旧科目名「企業の経済学」	
社会政策論			○		○	全	後期	2		石村 雄一	旧科目名「地域社会論」		
地域創生論			○		○	全	後期	2		菅野 拓			
地域産業論			○		○	全	後期	2		高橋 和志			
観光概論			○		○	2	後期	2		菅野 拓			

分野	科目名	必修	選択必修	選択	進路	要卒	配当学年	開講時期	単位	制限人数	担当者	備考
専門教育科目	会計系科目	中級簿記Ⅰ		◎		○	全	後期	2		近藤 汐美 伏見 康子	<ul style="list-style-type: none"> ・後期（後半） ・週2回の授業を履修すること ・「初級簿記」「簿記特講Ⅰ」の単位を修得し、「簿記特講Ⅱ」を履修していること ・または日商簿記3級レベルの知識を持っていること
		中級簿記Ⅱ			○	○	全	春期集中	2		近藤 汐美 伏見 康子	<ul style="list-style-type: none"> ・「初級簿記」「簿記特講Ⅰ」をの単位を修得し、「簿記特講Ⅱ」「会計学入門」を履修していること ・または日商簿記3級レベルの知識を持っていること ・日商簿記3級を取得していない人は、11月までに受験すること
		工業簿記			○	○	全	後期	1		伊藤 正隆	<ul style="list-style-type: none"> ・後期（前半） ・週2回の授業を履修すること ・「初級簿記」を履修していること
		原価計算論			○	○	全	後期	1		伊藤 正隆	<ul style="list-style-type: none"> ・後期（前半） ・週2回の授業を履修すること ・2018年度単位修得者は4単位 ・「初級簿記」および「工業簿記」を履修していること
		財務会計論			○	○	2	前期	2		伏見 康子	<ul style="list-style-type: none"> ・「会計学」または「会計学入門」の単位を修得していること ・「初級簿記」または「中級簿記Ⅰ」の単位を修得していること
		財務分析論			○	○	2	前期	2		植岡 忠清	・「初級簿記」および「会計学入門」を履修済みであることが望ましい
		管理会計論			○	○	2	後期	2		植田 有祐	・「初級簿記」および「原価計算論」を履修済みであることが望ましい
		税務会計論			○	○	2	後期	2		久保田 真行	・旧科目名「税務会計論Ⅰ」
	経済系科目	金融論			○	○	2	後期	2		前田 大牌	
		ファイナンス入門			○	○	2	後期	2		稲葉 浩幸	・「金融論」を受講していることが望ましい
		統計学			○	○	1	夏期集中	2		井口 衡 石村 雄一	
		マクロ経済学			○	○	1	後期	2		石村 雄一	・「ミクロ経済学」を受講していることが望ましい
		行動経済学			○	○	2	前期	2		田村 輝之	
		労働経済学			○	○			2			2019年度不開講
		国際経済学			○	○	2	後期	2		高倉 啓	
	環境経済学			○	○	2	後期	2		石村 雄一	・「ミクロ経済学」を学習していることが望ましい	
	外書講読	経営英書講読Ⅰ			○	○	全	後期	2	35	加藤 康	<ul style="list-style-type: none"> ・（注意）「総合基礎英語」の「イ、ロ」クラスを受講していること ・受講学生の選考は、担当者の裁量による
		経営英書講読Ⅱ			○	○	2	前期	2	35	佐藤 健司	<ul style="list-style-type: none"> ・一般編入学試験（経営関連分野の英語試験）を課す国公立大学経営学部・学科の受験予定者 ・受講学生の選考は、担当者の裁量による
		経済英書講読Ⅰ			○	○	全	後期	2		井口 衡	
		経済英書講読Ⅱ			○	○	2	前期	2		井口 衡	
	実践	プロジェクト演習			○	○	全	通年	4		加藤 悟 小島 理沙	<ul style="list-style-type: none"> ・登録時に担当教員との面談が必要 ・2年間履修は可能（ただし単位修得は1回のみ）
	編入関係科目	経営講読Ⅰ			○	編入	1	後期	2		佐藤 健司	
		経営講読Ⅱ			○	編入	2	前期	2		加藤 康	
		経済講読Ⅰ			○	編入	1	後期	2		田村 輝之	
		経済講読Ⅱ			○	編入	2	前期	2		石村 雄一	
		編入対策特講Ⅰ			○	編入	1	後期	1		井口 衡 高橋 和志	
		編入対策特講Ⅱ（経営）			○	編入	2	前期	1		高橋 和志	
	編入対策特講Ⅱ（経済）			○	編入	2	前期	1		田村 輝之		

分野	科目名	必修	選択 必修	選択	進路	要卒	配当 学年	開講 時期	単位	制限 人数	担当者	備考
専門教育科目	経営科学			○		○			2			2019年度不開講
	情報管理論			○		○			2			2019年度不開講
	生産管理論			○		○			2			2019年度不開講
	ソーシャルビジネス概論			○		○			2			2019年度不開講
	財務管理論			○		○			2			2019年度不開講
	連結会計論			○		○			2			2019年度不開講
	税務会計論Ⅱ			○		○			2			2019年度不開講
	経営学演習Ⅰ			○	編入				2			2019年度不開講
	経営学演習Ⅱ			○	編入				2			2019年度不開講
	経済学演習Ⅰ			○	編入				2			2019年度不開講
経済学演習Ⅱ			○	編入				2			2019年度不開講	